

日本銀行 金融機構局
第6回SDGs/ESG金融に関するワークショップ
「地域のESG課題解決に向けた地域金融機関の取り組み」

浜松磐田信用金庫のSDGs/ESGの取り組みについて

2025年11月28日

浜松磐田信用金庫
SDGs推進部 部長
竹内 嘉邦



浜松いわた信用金庫



金庫の概要 (2025.9)

- 営業地域 : 静岡県西部および愛知県東部
- 設立 : 1950年（創立75周年）
- 預金残高 : 2兆8,734億円
- 貸金残高 : 1兆4,221億円
- 店舗数 : 87店舗
- 役職員数 : 1,688名
- 自己資本比率 : 13.36%



貸出金の状況 (2025.3)



営業エリアの特徴



- ・主要産業は、輸送用機器製造（スズキ、ヤマハ発動機、ホンダの創業地）や楽器製造（ヤマハ、河合楽器、ローランド）であり、もの作りが旺盛
- ・東名高速道路、東海道新幹線が通り、交通の便が良く、また海と山と自然にも恵まれた地域
- ・人口は、浜松市77.8万人、磐田市16.6万人
営業エリア内185万人





取組方針および推進体制

- ・2019年1月、ユニバーサルバリュー宣言（SDGs行動宣言を制定）
- ・2022年9月、TCFD提言への賛同を表明し、気候変動への取組みを推進

経営理念

SDGs行動宣言

TCFD提言へ賛同

環境経営方針

融資基本方針

PDCAサイクルの実現

お客さま、地域の皆さんと共に環境負荷低減に努める

金融サービス、非金融サービスを通じた取組み

- ・コンサルティング
- ・ファイナンス
- ・マッチング 等

金庫の事業活動における環境への配慮

CO₂排出量の削減

- ・電気使用量の削減
- ・ガソリン使用量の削減
- ・再エネ電気の調達
- ・建築物省エネ化 等

報告



指示

ガバナンスと情報発信・開示による実効性確保

ガバナンス

- ・トップメッセージの発信
- ・経営陣による監督

気候変動における金庫経営上の機会とリスクの認識

情報発信・開示

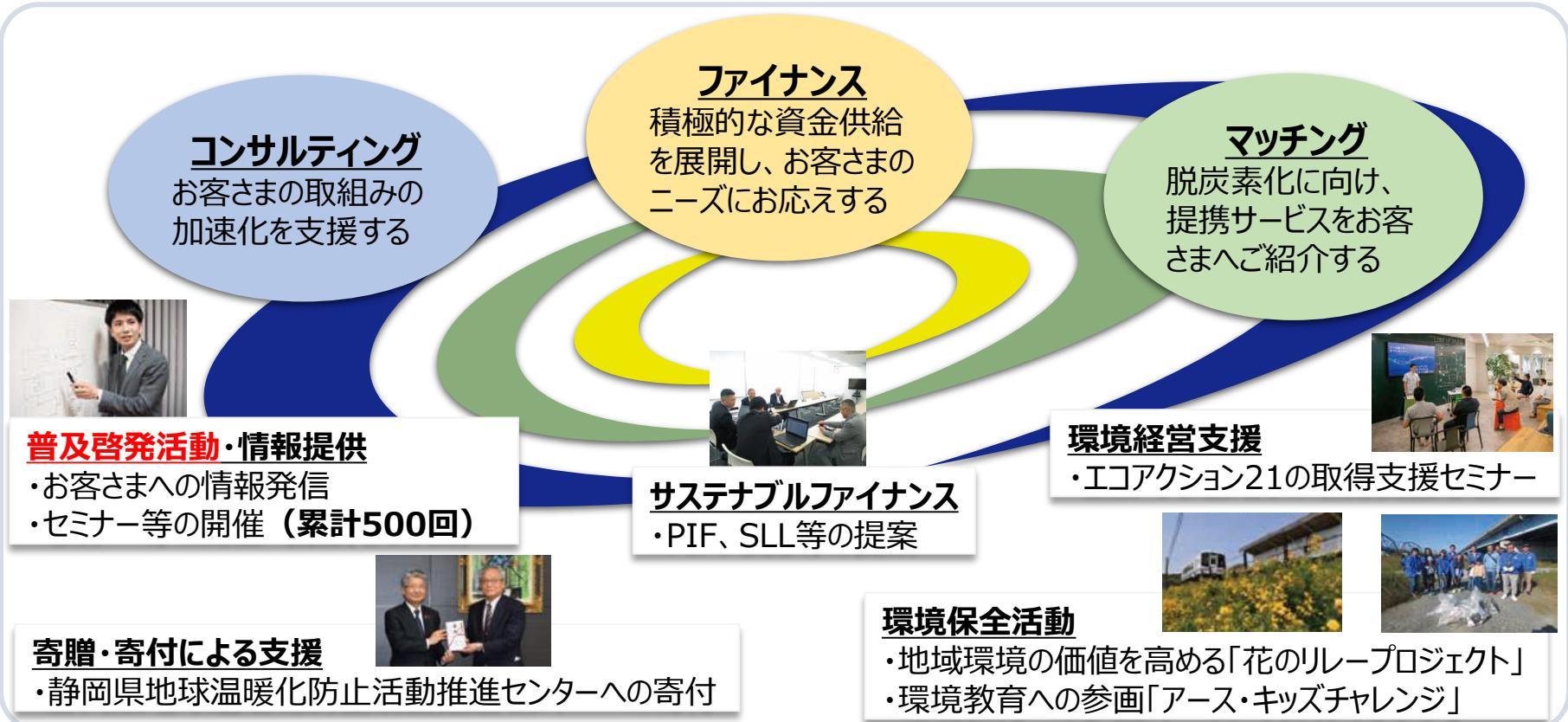


浜松いわた信用金庫



気候変動・脱炭素化支援の取組みへの考え方

- ・「コンサルティング」、「ファイナンス」、「マッチング」によるソリューション提供により、地域経済・社会の気候変動対応、脱炭素化の経営行動を促す





SDGsの取組み①

- SDGsに関する取組みを通じて、取引先企業との協業の度合いに応じて5つの指標で「見える化」を行い、ベンチマークとして活用

SDGsパートナーシップ5つの指標

1	SDGs講演	職員が講師を務めSDGsの基本を説明
2	SDGs登録制度	加入企業のSDGs対応を支援
3	花のリレー・アダプト参加	植栽活動を通じた地域振興事業
4	SDGs私募債	SDGsに関する私募債を引受け
5	PIF・SLL	企業の脱炭素などを金融面から後押し



SDGsパートナーシップ指標(5項目)を達成した事業者の表彰式 (2024年9月)





SDGsの取組み②

- SDGs講演は、2019年から開始し、350を超える企業・団体に実施
- 事業性評価を活用して展開し、PIF実行先には評価書との関連を説明

●SDGsを通じての企業ヒアリングのポイント
☆気候変動、人的資本、自然資本、地域企業もこれらは重要です！

◎気候変動
TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース):2022年9月浜松いわた信用金庫も賛同。

●SDGsとりレバンとは
☆自分の引き出しを多く持つことが大切だと感じています！

☆長期の信頼関係こそ持続性につながる

●PIF(サステナブルファイナンス)を社員に腹落ち！
☆PIFなど導入企業には信金らしさの伴走展開。要望により評価書の社員研修を実施、企業力強化には社員の腹落ちが必要！

◎PIF評価書の意義
●PIF評価書を一言で！

成長戦略の明確化！

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
☆不易流行
・技術革新
・成長
・設備投資
・労働環境

17 パートナーシップで目標を達成しよう
◎浜松いわた信用金庫内2024



ESG地域金融促進事業

- 2024年度のESG地域金融促進事業に採択
- 地域活性化に資するESG要素の展開と産学官連携による支援体制構築

建設会社が浜名湖畔で
国産有機バナナの生産
による地域活性化



Environment(環境)

- バイオマス（化石燃料のない熱源）
- 無農薬バナナ
- 畜産業支援

Social (社会)

- 耕作放棄地の活用
- 雇用促進
- 地域産業への波及

Governance (ガバナンス)

- 社会貢献性の高さから建設業のステータス向上
- 就労促進
- 地域との連携強化



浜松いわた信用金庫

ESG地域金融に取り組んだ経緯・目指すべき地域の将来像

担当者コメント

浜松磐田信用金庫

SDGs推進部部長

竹内 嘉邦 氏

浜松磐田信用金庫

SDGs推進部 SDGs企画課課長

久米 雅之 氏

【令和6年度持続可能な社会形成に向けたESG地域金融の普及・促進事業の申請経緯について】

- ・当金庫は、「魅力あふれる、持続可能な地域経済・社会」実現に向けた「原動力」となることを長期ビジョンとして掲げ、2024年度より第2次中期経営計画「Run to the Future～未来への挑戦～」をスタートさせており、地域社会の持続可能な発展を目指しています。
- ・このような中で当金庫は、ESGの側面から地域経済を支えるため、地域資源の有効活用と循環型経済の推進が必要と考えました。また、当金庫を中心とした地域金融機関としての信頼性向上と、地域企業や団体との連携強化が重要でした。バイオマス資源の高付加価値化や技術開発を進めることで、新たな雇用創出や地域産業の活性化を図り、さらにはESG評価の向上を通じて企業価値を高めることを目指しました。これにより、地域全体の持続可能な未来を実現するために、本事業への参加が最適であると判断しました。

【地域に与える影響・価値として期待していること】

- ・地域資源の有効活用を通じて循環型経済を推進し、環境負荷の低減と持続可能な資源管理の実現が期待されます。家畜排せつ物や農業廃棄物の高付加価値化により、新たな産業が創出され、地域経済活性化と雇用創出につながります。また、技術革新を通じて、ローカルなイノベーションが促進され、地域の競争力が向上します。さらに、地域住民や企業のESG意識が高まることで、環境や社会貢献に対する意識が浸透し、より持続可能な地域社会の形成が進むと考えています。

- ・今回、申請にあたっては静岡県のバイオマス活用に関する計画を参考に、地域資源の候補を網羅的に洗い出し「静岡県・浜松市としての課題」「静岡県における利活用の現状」「当金庫における地域資源に関する取引先との関わり」を評価基準としてサプライチェーン有望案を位置付けました。サプライチェーン案の実現により「循環型社会の推進」「既存の循環型社会ビジネスモデルの高付加価値化」につながる可能性があります。

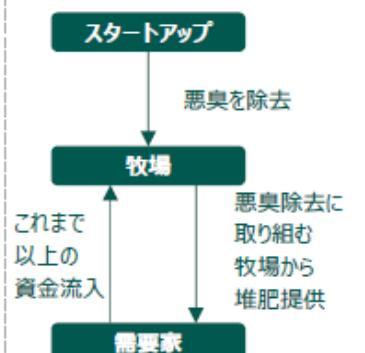
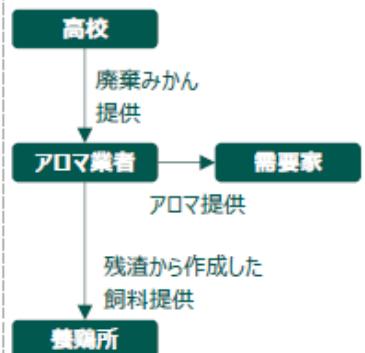
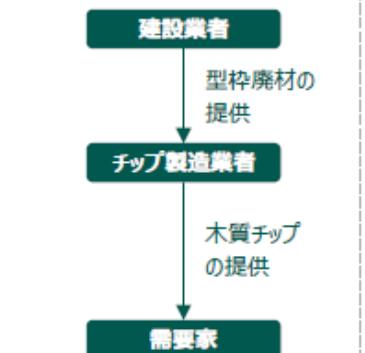
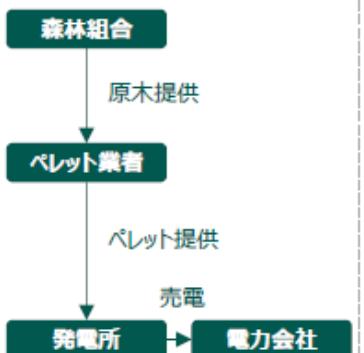
【実現したい「持続可能な地域」の将来像】

- ・静岡県、浜松市それぞれの自治体が目指すバイオマス資源を活用した循環型社会への取組と、当金庫の目指す将来像「魅力あふれる、持続可能な地域経済・社会」と合致しており、当金庫が地域に有する強固なネットワークを活用し地域の持続的発展に貢献してまいります。
- ・実現したい「持続可能な地域」の将来像は、環境、経済、社会の調和が取れた地域社会です。地域資源を最大限に活用し、循環型経済を確立することで新たな産業と雇用を創出します。住民や企業が環境保護や社会貢献に積極的に取り組み、地域全体で持続可能な生活スタイルを実現します。また、多様なステークホルダーが連携し、地域課題を共同で解決することで、活力と豊かさを持続するコミュニティを目指します。

サプライチェーン仮説の検討

- 洗い出しの結果、「家畜排せつ物（肉用牛）」「農作物非食用部（みかん）」「建設発生木材」「林地残材（間伐材）」が具体的なサプライチェーン案の検討を行う地域資源候補となった。
- 上記の地域資源それぞれについて、「浜松磐田信用金庫が有するネットワークからの情報」「自治体・企業の取組例」といった情報をインプットに、サプライチェーン案を検討した。

地域資源を活用したサプライチェーン（SC）案

タイプ	家畜排せつ物	農作物非食用部	建設発生木材	林地残材
インプット	<ul style="list-style-type: none"> 浜松磐田信用金庫の有するネットワークからの情報 有識者からのコメント 	<ul style="list-style-type: none"> 浜松磐田信用金庫の有するネットワークからの情報 	<ul style="list-style-type: none"> 他企業の取組事例 	<ul style="list-style-type: none"> 他自治体の取組事例
SC案概要	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題である牧場から発生する悪臭を除去。 そういった活動に取り組むことで、同牧場が配付している堆肥の付加価値化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校で廃棄されているみかんからアロマを製造する。 アロマ製造で利用したみかんの残渣は飼料として二次利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発生した木材から木質チップを作成し、需要家に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 林地の残材からペレットを作成し、そのペレットを活用して発電を行う。
イメージ	 <p>スタートアップ</p> <p>悪臭を除去</p> <p>牧場</p> <p>これまで以上の資金流入</p> <p>これまでも以上の資金流入</p> <p>需要家</p> <p>悪臭除去に取り組む牧場から堆肥供給</p>	 <p>高校</p> <p>廃棄みかん提供</p> <p>アロマ業者</p> <p>アロマ提供</p> <p>需要家</p> <p>アロマ業者 → 需要家</p> <p>残渣から作成した飼料提供</p> <p>養鶏所</p>	 <p>建設業者</p> <p>型枠廃材の提供</p> <p>チップ製造業者</p> <p>木質チップの提供</p> <p>需要家</p> <p>チップ製造業者 → 需要家</p>	 <p>森林組合</p> <p>原木提供</p> <p>ペレット業者</p> <p>ペレット提供</p> <p>発電所</p> <p>発電</p> <p>電力会社</p> <p>発電所 → 電力会社</p>



ESG地域金融促進事業：気づきと伸長

☆ESG地域金融促進事業からの気づきと波及効果

- ・信用金庫のSDGsは地域をつなぐこと、地域の仲介機能を発揮するパートナーシップが重要
- ・E(環境)に着目することにより多くの気づき、広がりへと伸長して地域活性化に寄与する。

◆構築できた地域での仲介事例(環境から派生したマッチングなど)

●国産バナナの栽培と他業種連携

⇒バナナをすべて活用したい。バナナの葉を地域畜産業へ提供(和牛の餌)、畜産業支援(ブランディング)とスタートアップ(家畜の臭いを除去)のつながりを仲介。

●バイオマス熱源(型枠廃材の活用)として同業への参画依頼

⇒今回の事業を紹介しながら型枠廃材の提供や活用を促す。業界に取り組みを周知することによって建設業界全体への普及を伸長させたい。

●地域資源の見直しと产学連携(バナナ以外の地域資源を見直す)

⇒地域資源(みかん)を栽培する高校と起業家の連携。農業科を備える高校は摘果みかんの廃棄が課題であった。廃棄みかんからアロマを抽出する起業家を紹介。原材料に寄与。

●高校で授業化している「地域資源活用」の伴走支援

⇒地域農業高校が地域資源に活用した学習を実践。高校生が生産者(農業事業者)と消費者をつなぐ実践的な取り組み。資金支援に加えて連携企業を仲介。

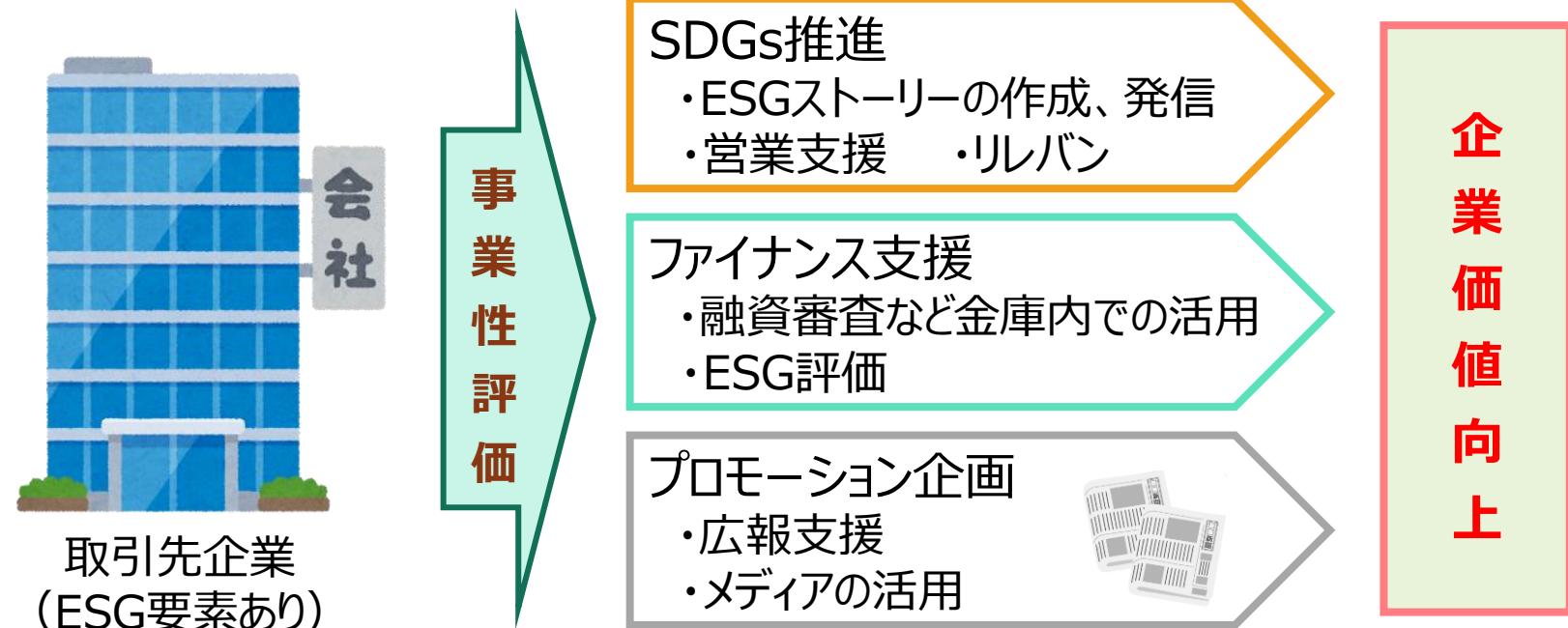
☆その他、多岐の相談依頼が発出されており環境の伴走から本業支援に伸長している。





事業性評価を外へ

- ・地域金融機関として信用金庫らしい支援
- ・事業性評価をリレバン・審査・広報へ活用することで、企業価値の向上へ



あなたの夢に、追い風を。

HAMAMATSU IWATA SHINKIN BANK

ご清聴ありがとうございました



浜松いわた信用金庫